

ふるさとづくりのために
環境経済に取り組んでいます！ ④3

豊岡わこう堂(有限会社和平) (下陰)
「コウノトリ育む農法の米を使用した和洋菓子の製造」
「環境を良くする事業で経済効果が生まれることにより、環境と経済は互いに発展し合う」。このような環境経済型事業に取り組み企業にインタビューします。
《問合せ》エコバレー推進課環境経済係 ☎23-4480

―和洋菓子の店「豊岡わこう堂」を出店したきっかけは？
当社は、旅館業からはじまり、和食料理店「和平」など、飲食業に業務を拡大してきました。

和平では、法事や祝い事など、お客さんの節目の行事の手伝いもしています。併せて初誕生を祝う一升餅など、行事に必要なものを用意しますが、その中で、食文化としての、和菓子^{わかし}の重要性に気付きました。

和のしきたりの中では、団子や餅などの和菓子が大きな役割を持ちます。但馬地域では、今も地域に人をつなぐ和のしきたりが残っており、そうした伝統を、和菓子に乗せて伝えていきたいという思いで出店を決意しました。

―認定された環境経済事業は？
命に携わる者として、食



▲店舗

育を考えたとともに、命とのつながり、命への共感を大切にしなければいけないという考えにたどり着きました。そこで、同じ思いで栽培されているコウノトリ育む農法で作られた米を使うことを決めました。

また、豊岡市は、お菓子の神様「田道間守命」を祭る神社がある「お菓子の聖地」でもあります。聖地で作られたオリジナル菓子を全国に発信していきたい、そのためにも豊岡を代表する農産物を使おうと思いました。
コウノトリ育む農法の米を使用した商品には、もっちりとした食感と自家製餡が自慢の看板商品「豊岡ええまん」やコ

ウノトリ育む農法で栽培された大豆から作った醤油を蜜に使用した「招福団子」などがあります。

―今後の展開は？

豊岡のお菓子であることを前面に出して、首都圏など大きなマーケットに積極的に売り出したいと考えています。

しかし、ただ売るだけではなく、お菓子と共にコウノトリと共に生きる風景やお菓子の聖地であることを発信し、こんなに素晴らしい歴史と風景の中で作られたお菓子なんだ^わという豊岡への憧れを都市部に広めていきたいです。そのためには、イメージの原点となる、実店舗も充実させる必要があります。具体的には、店舗の近辺にピオトープを作り、コウノトリの餌場にするなど、環境づくりも進めていきます。



▲豊岡ええまん

※詳細は、問い合わせてください。
☎23-22250

みんなで取り組もう

豊岡エコポイント ②0

市では、環境行動の成果が形となって表れ、実感できる仕組み「豊岡エコポイント」を実施しています。
抽選会や商品などの情報をシリーズでお知らせします。
《問合せ》エコバレー推進課 ☎23-4480

■グリーンカーテンで

エコポイントをもらおう♪
市では、みんなでエコに取り組みまちづくりの一環として「グリーンカーテン」の実施を推奨しています。

「グリーンカーテン」を設置すると、個人には市民エコポイント10ポイントを、事業所には企業エコポイント2500ポイントを付与します。市民エコポイントを10ポイント貯めると、環境関連商品などが当たる抽選会に参加できます。

■エコ検定合格で

エコポイントをもらおう♪
エコ検定は、毎年2回、7月と12月に実施し、合格した方には合格証が送付されます。これを市役所に持参すると市

民エコポイント5ポイントを付与します。

○第16回エコ検定

▼試験日 7月27日(日)午後1時30分～3時30分

▼試験会場 豊岡商工会議所会議室

▼対象 学歴・年齢・性別・国籍による制限はありません。

▼受験料 5400円(消費税を含む)

▼申込期限 6月13日(金)

▼申込み 東京商工会議所検定センター

☎03-3989-0777 (平日午前10時～午後6時)

※ <http://www.kentei.org/eeco/>

▼問合せ 豊岡商工会議所

☎22-4456

○第6回市民エコポイント 抽選会

▼日時 7月6日(日)午前10時30分～午後3時

▼場所 豊岡稽古堂1階

◇市民エコポイント10ポイントで1回抽選できます。

◇抽選会の賞品を提供・協賛いただける事業所は連絡してください。



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



初回の浴衣のファッションショーは柳並木・太鼓橋を背景に開催

from Venezuela!

南米ベネズエラから来ました

インパウンド(外客誘致)活動を展開し、今や世界の温泉地に

麦芽100%にこだわる城崎ビールも造る

「浴衣の似合うまち、城崎を世界一の温泉地にしたいな」と本気で考えています

独自性あふれるアイデアでイベントの数々を手掛けて20年。いわば、まちのプロデューサー、若手経営者からも慕われる城崎温泉旅館協同組合理事長の話をご紹介します。

高宮 浩之さん(52) 城崎町湯島

温泉

ブーム真つただ中国の昭和60年代、全

卒業旅行の人気場所にも選ばれた城崎温泉では、二十歳前後の女性グループの歓声が温泉街で聞かれました。

当時、東京で就職情報などを紹介する会社に勤めていた高宮浩之さん。「東京や大阪に人口が集中するのはよくない」とUターン・イターンを支援する雑誌に携わり、全国の地方都市を回っていました」と振り返ります。

地方都市が発展しないと日本の発展はない。有言実行というのでしょうか、会社を辞め、平成6年、城崎で旅館の仕事を始めました。

城崎の独自性を激論

温泉ブーム後、平成不況も重なり淘汰される温泉地。城崎はそれとは一線を画しつつも模索の時期、独自性が必要と分かっていました。

高宮さんは、「但馬・理想の都の祭典」の際「城崎文化フェスタ実行委員会」に加わります。「城崎の人は懐が深く、良くしてくれました。別に私一

人でやったわけではありませ

ん」。しかし、実行委員の中心的存在となり「浴衣のファッションショー」をプロデュース。城崎の特性を生かしたイベントとして高い評価を得ました。その3年後、まち全体の置き傘「みんなの傘」を手掛けます。イベントにはいつもニコニコ顔の高宮さんの姿がありました。

「実行委員と深夜1時、2時まで議論したことを今でも鮮明に覚えています。『よその観光地のまねも、よそにまねをされるのもイヤだ。城崎の独自性は何だ』と。そんな議論を続け、世界にも類を見ない「この温泉街自体が素晴らしい」と結論付けます。「他の温泉地が、色浴衣の貸し出しをまねたのですが長続きしません。外に出るとビルでは駄目なんです。和風の風情ある街並みがあるからこそ、浴衣を着てそぞろ歩きすることが絵になるんです」とお

が緩みます。みんなの傘も、根付くためには傘の再配置や補修など隠れた小さな努力が必要といえます。

「年代ごとに取組み方の違

いがあったいいと思っ

ています。上の世代は外湯巡りを商品化した。下の世代は、浴衣のファッションショー一つとっても完成度が高く、マスマディアやかばんブランドと上手にコラボ(協力、共同作業)しています。私らのころは手作り感があって…。素人がプロのモデルに歩き方や立ち位置を教える(笑)とか。今思うとよくやったなと」。

「6月、感動に出海おう」

デジタル外湯券「ゆめば」の導入や、外国人観光客の誘致にも参画。今は6月開催の日本劇作家大会の実行委員として活動中です。「2月に『まちかどリーディング』を観賞しましたが、女優が短編を読むだけなのにまるで2時間映画を見ているようで、すっごく面白かった」と平田オリザさんの秀逸なプロデュース力に驚嘆したとのこと。

素晴らしい作品との出会いは人生を変えるといえます。劇作家大会については「楽しいプログラムがいっぱいあります。ぜひ、参加してほしい」と呼び掛けていました。

FMジャングル「ピックアップ豊岡の宝」(6月3日午後1時、6月7日午前9時などに放送)にも地ビールの話など、高宮さんの別の話が聞けます!